

私の思い出



みそら野 櫻井 清一

ああ白馬!!

私はみそら野に居住し、職業は齒科技工所を妻と二人で営んでいます。出身は山梨で、進学のため上京していた頃、弟が高校のスキー部に入学し、白馬で合宿したことで私もスキーに興味を持ち白馬に来るようになりました。大学が休みになると新宿から夜行の各駅停車で白馬に出かけました。その頃は登山者も多く通路や座席の回りはリュックサックなどの荷物で身動きできないほど混み合っていました。また、バイト代が入った時は急行のアルプス号に乗り、夏休みに木崎湖まで来ると真っ青な湖水でのんびり浮かんで

いるボートが見えて、写真でしか見たことのないスイスの景色を思わせ、青木湖では白馬の山々が湖水に映りとても奇麗でした。当時、ロッジで居候しながら宿を手伝っていました。どこの宿にも私のような学生、または社会人(今で言うところのフリーター)など白馬の山々に魅入られた人たちが大勢いたような気がします。居候なので、いつでも遊びに来れました。特に冬は手伝いの間にリフト券を借りてスキー三昧でも楽しんで、夕食の準備に遅刻をしてよく怒られました。あの頃、絶対白馬に住むんだ!と決めていました。しかし、東京で就職してからは白馬のことはすっかり忘れていました。自宅を考えた時、都内にするか、どこか地方にするか迷いました。しかし、どうしても譲れない夢がありました。海の近くか高原のようなリゾート地で仕事をしながら住みたいという事で

す。幸いに宅急便が発達しどこでも仕事ができるようになりました。千葉県の海の近くか、白馬も候補になりました。そんな時、友人の一人から自分たちも移住先を探していて、二人で一緒に白馬で仕事を始めないかと声を掛けられました。昔、白馬に住みたかったことが現実的になり憧れの地に移住することを決断しました。しかし、白馬に住んでみると大変様変わりしていて驚くことばかりでした。冬の雪を甘く見えて、スキー場の為には沢山なければ駄目ですが、普通に生活するには多過ぎますよね。それでも白馬に住んでよかったです。もうひとつの候補地、千葉の海の近くは先の大震災の被害でたいへんなことになったようです。そんな訳で「ああ、白馬!」なのです。これからも、こんなに美しい山々が見えるところで、こんなに空気も水も綺麗なところで仕事ができ、住んでいける。だからもう一度噛みしめます。「ああ、白馬!!」。



避難場所案内板

追跡レポート

こないだ聞いたことあるー
どうなったただやあー

【平成23年第2回定例会 (6月) 一般質問】

問 避難所看板の設置計画は。

答 平成23年度から村主体により順次設置します。

その後 平成23年度は補正予算で、平成24年度は当初予算で設置しました。また平成25年度も当初予算に設置費用を計上しています。

【平成24年第4回定例会 (12月) 一般質問】

問 要望の多い医療費補助対象年齢の18歳までの拡大は。

答 拡大したときの給付金を試算し、年齢拡大について前向きに考えて、検討します。

その後 その 出生・転入等から満18歳になった年度末まで対象年齢を広げました。所得制限はありません。平成25年4月1日以降に受診した、保険診療の対象となる入院・通院にかかる医療費が対象となります。食事療養費や保険対象外の自己負担金などは対象になりません。

こうなっただけわ